

## 災害発生時の現場状況

# ラジコン飛行機で探査

## 社内V B製品第1弾

### キャリオ技研 自治体向け拡販

【名古屋】キャリオ技研(名古屋市中村区、富田茂社長、052・627・0495)は、ラジコン飛行機を使って災害発生時の現場状況を探査するシステムを完成、全国の自治体に売り込みを始めた。同社は自動車や航空機の部品設計が主力で、災害時探査システムは社内ベンチャーによる自社製品の第1弾。今後5年間で300台を売り上げ、社内ベンチャー組織の分社を目指す。

完成したのは「災害時 0」。ラジコン飛行機に

第一探査機MAPX-1

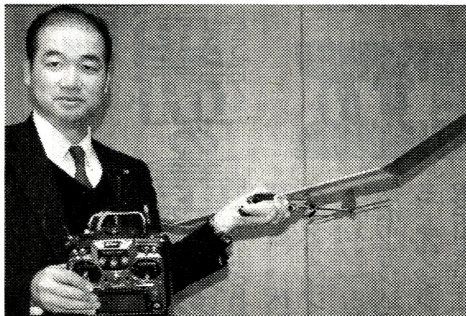
無線通信機能付きカメラ

を搭載し、上空から

撮影した動画を地上にリアルタイムで送信する。通信

範囲は半径1.5キロ。遠隔操作と画像通信に混信の少ない2.4ギガヘルツの周波数を採用

▲……………開発した「災害時第一探査機MAPX-10」



飛行中に撮影した動画を地上で受信し、パソコン画面で確認しながら操縦できる。ラジコン飛行機は翼幅1.2メートル、重さ700グラム。リチウムポリマー電池を使い、約12時間の連続飛行ができる。購入者には同社が操縦を教習する。製品一式と教習費、教習期間中のメンテナンス費を含めた価格は、教習内容により1

00万~300万円。地震や雪崩など災害時の初動探査用として、販売担当は5人で全国の自治体に売り込む。同社は3次元CADを使った航空機部品の設計などが主力。中部大学が総務省から受託した災害時用無線ターミナル飛行船の開発事業に2年前に参画。この経験を基礎にMAPX-10の開発を進めていた。

同社は「自社製品開発は人材育成にも有効」と判断。08年8月に岐阜県のインキユベーション施設内に社内ベンチャー組織を立ち上げ、同年11月に岐阜県御嵩町にラジコン飛行機の飛行実験場も確保した。



#### 18 ラジコン飛行機で現場探査

キャリオ技研はラジコン飛行機を使って、災害発生時の現場状況を探査するシステムを完成した。翼幅1.2米